（廿八日夕刊）
磐城新聞
休刊　大祭　第一第三日曜
定價　壹枚二錢、壹ヶ月五十錢、郵税十錢
廣告料（雜報欄行五十錢　場所指定二十錢增）
發行兼編輯印刷人　蓮沼龍輔
發行所　福島縣平町田町拾六　磐城新聞社　電話五六四番

## 全國禁酒大會に臨みて（中）

鈴木積善

第七條　役員ノ任期は三ヶ年とし再選するを妨げず

第八條　會長は事務を總括し副會長は會長事故あるときは之に代り理事は會長の諮問に應じ又隨時意見を述べ幹事は會長ノ命により同盟に關する事務を處理する幹事數名あるときは若干名は會計事務を掌るものとす

役員ノ任期に至るも事情により新役員選任せらざる間は舊役員當分其職務を執るものとす

第九條　本同盟或は禁酒事業に功勞あり又は特に助成したるものは本同盟の名譽會員又は顧問に推薦す

禁酒會員或は會員にあらざる者雖も特に禁酒事業に對し功績或は援助をなしたるものは當該禁酒會長の申出により本同盟會長より謝狀を呈することあるべし、會員の死亡等も亦之に準す

第十條　每年一回總會（理事會或は各會代表者會）を開き會務及會計ノ報告其の他須要事項ヲ協議す事情によりては總會を略し書信し往復により之ニ代することを得

總會ノ場所時日は會長より其都度通告す、會長必要ありと認むるか理事三名以上の要求あるときは豫め各會に諮りて臨時理事會を開くことを得又必要により會員大會を開くことを得其方法等前に準す

第十一條　各會は每年四月其役員氏名會員數會則等に於ける著しき變更の事情等を同めい會に通告し又役合は其都度通知するものとす　以上

因に役員として會長に平禁酒會長桐谷文平氏、副會長貝山禁酒會長渡邊　雄氏二部禁酒會長菱田峰次郎氏當選就任した。

---

## 講談　闇に閃く男達

（74）

高田涙川作　尾崎雪麿畫

### 現れた石川正春

小兵衛敬次の一味が浮き足をたて逃げだしたは何ごとか起つたに相違はないのだ

「ヤア〳〵卑怯千萬なる源氏車の小兵衛とやら男と男との決鬪に飛び道具を用ひるとは何事なるぞッ、義に依つて木更津藤兵衛に助勢いたす、かくいふ拙者は若州小濱の浪人石川正春と申すものなり、そこにゐるは金五郎ではないか只今その方に銃をうちかけたる曲者はこの正春がとつて押へたかゝるうじ虫同然のやつらを切り捨てるは刀の汚れなればこの上はこの鐵扇で一人殘らず皆殺しにいたしてくれる覺悟をせよッ」

小野派一刀流の名人石川正春は逃げるやつには目をかけず向つてくるやつは右左にとつて投げる鐵扇でなぐり倒す、つひには傍にありし五十貫もあると思はるゝ大石を兩手にウンと差し上げた

「サアうじ虫ども近寄つて參ればこの大石が汝らの頭上にとんで行くぞッ命の入らぬやつはサア參れッ」

大石を差し上げ四方をにらんだ形相は鬼神もよりつけぬかと思はれた、子分のやつらはそんな大きな石が頭上へとんで來てはたまるものかと誰一人として近寄るものはなかつた

「オ、あなたは石川先生でございましたか、ナーニ御心配下さいますな、これしきの木ッパ野郎たとへ片足はかなわずとも決しておくれはとりません」

金五郎はなつかしの石川先生の姿を見て勇氣百倍する許りであつた

「オ、金五郎、先刻よりその方の働き正春感心致したしかし多少なりとも傷をうけし上は少し下つて休息するがよい、この場は拙者と政吉とで引受けた」

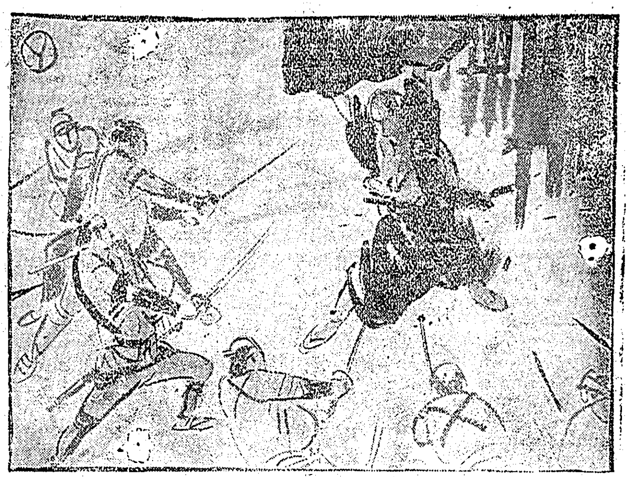
藤兵衛も政吉も石川正春には一本の教導を受けたことがある。

「オ、石川先生こゝへはどうしてお出でになりました」

正春の名のるを聞い、飛んできたのは藤兵衛であつた

「オ、その方は藤兵衛か、萬事の話はのちのこと、と に角この場の片づけをいたさう」

この時小兵衛一味のものは既に引拂ひ負傷者が倒れをるばかり正春はやうやく差し上げた石を下す、一同その怪力に驚いた、かゝる有様でこの夜の出入は全く藤兵衛の勝となつた、小兵衛の方には大勢の負傷者を出し多少の死人もあつたこゝで駕の用意をなし金五郎をのせ藤兵衛宅に戻る　石川正春は木原熊八郎に繩をかけ鬼曲の政吉た多福新吉らにこれを引かせ一同と共に引上げた、



金五郎の銃瘡は大した事は無つた。たきぬは元々その身より起りしこと、まして愛人のことであるから夜の目もねずに看護につとめた

「さて先生あんな深夜六郷河原なぞへはどうしておいでになりました」

正春を一室に招じ一別以來のあいさつもすんだ、ち藤兵衛はたづねた

「どうも藤兵衛どの誠に不思議な縁といふものであらう實は數年前より鎌倉建長寺に寓居し、膽力を錬るに餘念なきうち、ふとせし機より金五郎と子弟の關係を結び金五郎と別れのちは江戸へ參るはずであつたが種々所用のため延引した、日中は暑く涼しい夜道をと昨夜ブラ〳〵通りかゝつたアノ六郷河原見れば逹者同志の出入りに相違はない、もしや木更津一家のものではあるまいかとそれとはなしに向ふの松原で様子を窺ふとも知らず何やつか飛道具で狙ひをつけをる様子アワヤと思ふ間に一發放つたそれと同時にけんくわの相手は木更津一家と知り早速その男を捕へたのである」

廣告

鼻のクスリ　チクノール錠
痔の最高内服藥　ダイサン錠
平町五丁目角
山野邊藥局

---

龍虎相搏つ　短期特別大興行

來る三日より
三日間

◇幕末大捕物奇譚◇

『修羅王』（幕末大捕物帖）

監督…池田富保
助監督…清瀨英次郎
進行係…西村治三郎
撮影…松村清太郎
進行係…築山光吉
舞臺裝置…安井幸次郎

……（配役）……

| | |
|---|---|
| 山縣龍次郎 | 河部五郎 |
| 早繩重吉 | 大河内傳次郎 |
| 矢代傳五郎 | 尾上多見太郎 |
| 山縣左治馬 | 兒島三郎 |
| 有原剛三 | 新妻四郎 |
| 島田主馬 | 桂武男 |
| 青柳丑之助 | 市川市丸 |
| 錦木傳藏 | 谷崎十郎 |
| 松川織部正 | 寶川延一郎 |
| 小梅淀五郎 | 中村仙之助 |
| 山縣治左衛門 | 尾上卯多五郎 |
| 伊村小彌太 | 嵐玨松郎 |
| 小安清之進 | 嵐龜三郎 |
| 醫者宗傳 | 嵐璃左衛門 |
| 花房清三郎 | 葛木香一 |
| 地獄の吉藏 | 尾上華丈 |
| 桐田彌四郎 | 岡崎晴夫 |
| 幸澤彌七 | 市川百之助 |
| 安木藤九郎 | 尾上鶴五郎 |
| 箱屋喜六 | 尾上桃華 |
| 重吉の伜金次 | 中村英雄 |
| 藝者千代香 | 酒井米子 |
| 同　花江 | 櫻木梅子 |
| 重吉女房た絹 | 澤村春子 |
| 左治馬の妻お八重 | 小松みどり |
| お米婆 | 松本靜枝 |
| た吉 | 村瀨輝子 |
| 八房の傳吉 | 市川正之助 |
| 早川慶次 | 尾上蝶次郎 |
| 千草幸藏 | 隼秀人 |
| 築城三五郎 | 市川左雁次 |
| 安村十郎 | 嵐岡若 |
| 菊田藤兵衛 | 淺見勝太郎 |
| 佐伯作之進 | 尾上松昇 |
| 梶村勘十郎 | 川田弘道 |

熱狂的フアンの御熱望に迎へられ
超絕名畫再三の出現、第八藝術の
典型、千古不滅の大帝王篇を見よ

浪人？直參？今宵も三つの魂は消ゑた、到幕の犧牲は三ツ增したわ、我等の滿願は近づいて來るのだ、寄るなツ、寄れば村正の鍔が鳴るぞツ、觸れば汝の魂は消ゑるぞ……

說明　石井孝

◇春季名畫大會◇

見よ

高評超絕!!
到る處噂話題!!
一世の耳目
此處に集る!!
名畫!
再來の時!
陽春の異彩!

阪東妻三郎　映畫

◆時は奢侈隨華の美なりし文化の時代が生める旗本代表的デカタンと神出鬼沒の大盜が深謀術策を凝らしての爭鬪何れが捷つか何れが敗るか、阪妻映畫の白眉

說明……石井孝

くも　全十五卷

ハロルドロイド　映畫

◆パテー社名畫、原名『くよ〳〵するな』
助演　ジヨビナ・ラルストン孃

巨人征服　全六卷

映畫のうちに、美と笑と詩を求めんとする人々の爲に此一篇が作られた事を忘れ給ふな

說明……南桃華

日活松竹高級映畫

平館

電四六六

株主總會に乘る
# 平町の製糸工場
通過すれば直ぐ着工
## 町當局實現運動

日本の製絲王國片倉組が平町に三百釜の一大製絲工場を設置するの計畫が一度傳はるや當業者は勿論地方民の副利額の大なるものありとし平町當局を始め郡蠶絲業組合、郡販賣利用組合等各れも力瘤を入れ此の實現促進の運動を續けて來た折柄今般片倉組財務取締片倉兼太郎氏一行が敷地視察の爲め來平愈々問題は急促進展を見るに至つたが片倉組本社では來る卅日午前十時から株主總會を開き該問題を提案し豫定で萬一をも考慮した平町當局では伏見町長、青沼、井上、萩原の三町議が明廿九日上京本社側重役並に株主間に平町に工場建設案の通過方に就き猛運動の爲に努むることとなつたが同案が總會を通過すれば直ちに起工實現の運びに至るものと見られてゐる

---

湯本町地下の
# 鑛區訴訟
評定官來湯

石城郡湯本町大字湯本區が地下採掘願ひ出た元入山炭礦々業所長吉本眞一氏に對し吉本氏が湯本町を相手取つて行政訴訟をなしつゝある一件に關し東京行政裁判所長濱田評定官、東京帝大教授佐野博士、古河炭礦會社末續技師の一行は實地調査のため二十三來湯二十五日歸京したが同町區會議員は善後策について協議中であると

---

植田街道に横はる
# 青年の怪死体
署長以下實地に急行
## 或は屍体を解剖

石城郡湯本町より植田町方面に通ずる國道渡邊村大字田邊地内道路の崖下に二十七日午前八時住所氏名不詳推定年齢三十才位の勞働者体の男が死んでゐるのを通行人が發見其の筋に訴ひ出たので植田警察署長後藤部長は部下刑事數名を引伴れ同町片岡醫師と共に現場に急行檢死を遂げたが伊藤家と染め拔いた印絆大紺の脚絆にアサヒ足袋を着し現金十一錢在中の財布を所有する外所持品なく死因に就ては前額部に長さ二サンチメートル、深さ骨膜に達する外傷あるも致命傷ではないらしく唯だ疑ひは頭部全体が膨れてゐるので内部に故障があるではないかと推定される筋もあり或は死体を解剖に附すことになるかも知らぬが植田町邊には同夜も此の事件が强盗殺人事件の如く宣傳され非常に市井を騒がした

---

# 馬頭觀音の由來
大鮫に脅れた相馬侯
## 石城地方の傳説

石城郡錦村松川沖に一尾の大サメが棲んでゐて時々波打ぎはにその巨大な姿を現すことがあつたがその色は眞つ黑で背にはノリさへ生じ土地の漁夫達は松川樣と稱してその海濱に現れるや皆相集まつて酒をみぎはに捧げ敬意を表するのを常としてゐた

◇……

處がたま〳〵相馬藩主江戸參勤からの歸途關田海岸をさしかゝるや彼の大サメが姿を波間に現し春の水に良い心持になつて浮かれ氣分でおよいでゐるのを見られた相馬侯は氣まぐれ心か矢を放つてこれを射た處忽ち海底深くくゞり込んだと見え姿を消してしまつた相馬侯は不審に思ひながら駒を進めてサメ川に至り今や川を渡らんとするや下流の方水波の立ちさわぐあり侯首をめぐらしてよく〳〵見れば彼の大サメ頭上深く矢を刺されたものと見えそのしかめつつらを一層しかめながら勢ひ激しく迫り來るので侯はびつくり仰天駒を飛ばし辛うじて先づ難なく渡ることが出來た

◇……

ホッと一と息ついた相馬侯は一寸した氣まぐれとはいひながらつまらぬ殺生したものと思ひまた一夏には入サメの執念深いのには驚きながらサメ川から八里程北方の夏井川を渡らんとし馬を水中にいり入れるや先の傷ついた大サメ怒りの顏色物すごく侯を待ち構へたものゝやうに白波を蹴り激浪をまき起して無二無三に侯を追ふので相馬侯二度びつくりかうなれば乘の行列もほつたらかし下世話でいふ「命にかへる寶はない」とばかり乘馬にむちあてこれまたしや二無二と對岸目がけて駒を急がせた

◇……

一、遠駒とサメとの競泳と御座乘…」といふ處だが相馬侯はそれ處かコマりきつてやつとサメのたもとからうじて命かけ幸ひに馬は名にし負ふ相馬の駿馬だつたため最後へピー命からがら對岸に上り一命の難を免れたが可哀さうなのは相馬侯の召の馬主人公は助けしたものゝ自分は遂に倒れて夏井川畔にその骨を埋たといふ、いま薄に殘き尾花〳〵川畔にさびしく殘されてゐる馬頭觀音供塔はこの馬を葬つたものである。

---

戸田氏を迎へ
# 撞球大會
スズラン撞球場
## 來月六日開催

平町十五町目織田榮三郎氏の經營するスズラン撞球場は去る八日開業以來新鮮な氣分よい設備が愛好者を喜ばせ頗る好評を得てゐるが來る五月六日午後一時から撞球披露を兼ね撞球大會を開催する事なり目下準備に努めてゐるが當日は日本有數の一流選手戸田選手を迎ね午前中は其の妙技を公開する筈で近年異狀な發展を見せてゐる常磐撞球界に一大刺激を與へるは勿論非常に期待されてゐるが大會の競技方法は三人突き持ゲームの七番三回連勝者を一回戰に出場せしめ同樣方法に依り二回戰三回戰と最後の決勝に入る筈で一等には金側腕時計を以下十等まで殊勳者戰亡者戰は各れも各五等まで當日は末曾有の盛會を豫想されてゐる

---

常磐の鑛夫組合員
# 千五百名脱退
背に腹は代へられず
## 餘儀なき沈默姿

常磐地方各炭礦に所屬する勞働者等は勞働條件の改善を叫び各炭礦會社を連續的に約一箇年に亘つて抗爭を續け一時勢力の絶大を誇つた常磐各炭礦に支部を有する日本鑛夫組合はその後會社側が組合勢力の驅逐に全力をあげ組合員の馘首彈壓を加へそれに炭界の未曾有の不況に陷てゐるため一度失業すれば到底就職することが出來ぬ有樣なので組合員も自然衣食のためには主義も捨てなければならぬ破目に陷り會社側の彈壓と相俟つて組合から脱退するものが多く今日では入山の如な一人の組合員もなくなつたところもあり現在では磐城、磐崎の各支部を合しても僅四百名の組合員を有するのみで昨春二千餘の組合員を有し勢力絶大を誇つた同組合も千五百餘名の脱會で今日では全く形をひそめた形である

---

町村長會で
# 優良吏員表彰
伏見氏は會長

今縣町村會總會は去る廿六七の兩日白河町に於て開催縣からは伊藤知事、内務部長、警察部長を始め各課長内務省丹羽書記官等臨席し節優良吏員として表彰された者廿四名中本郡からは平窪村助役草野恒彌、渡邊村書記吉田光信の兩氏で更らに第二回目役員改選の結果會長伏見平町長、副會長丸岡白河町長阿部故下町長各れも再選され評議員として泉村長中村豆彌氏當選した

---

## 小名酒造協議

石城酒造組合小名濱支部では二十五日午前十一時から同町新米旅館に於て協議會を開催した

---

豫審判事一行
# 實地に急行
平署刑事出動

別項渡邊村で發見した怪屍体事件は其の後植田署が總員出動で探査の歩を進めてゐるが取調進むにつれ他殺の疑ひ益々濃く急報に接した福島地方裁判所平支部遠藤豫審判事平檢事局三笠檢事の一行は廿八日午前七時現場に急行取調を開始し更らに平署から鈴木司法主任、青田刑事部長以下刑事數名は捜査應援の爲め此れまた現場へ急行植田署と共力して疑問の怪屍体事件の謎を解くべく努めつゝあ

---

# 鶴翁遙拜式
入山倶樂部に於て

湯本町入山炭礦では同社の最も深き關係のあつた大倉喜八郎男の逝去を悼み今二十八日午後二時より同町臺の山倶樂部に祭壇を設け故鶴彦翁の遙拜式を嚴かに執行した

---

# 復たチブス
平町當局狼狽

平町字大町高橋ハナ(二六)は數日前から病臥中であつたが昨廿七日根本醫師診斷の結果腸チブスと確定直ちに隔離の手配を爲したが下火に入つたと觀られた腸チブスの再炎に町當局警察當局でも狼狽してゐる

---

四倉電氣が
# 設計變更
需要五千キロ

石城郡四倉町の四倉電氣株式會社では從來東部電から一百二十キロを買電してゐたが、最近需要增加したから更に二百八十キロを增加五百キロにすべく縣經由で遞信大臣宛設計變更を申請した

---

村長の次ぎに座る
# 偉い泥醉老爺
慘々タンカを切つて
## 平署員手古摺る

平署玄關口に廿七日午後「捕へて呉れい」と吐鳴り込んで來たので當直の警官數名は直ちに此の老爺が言ふ現場に急行取調たが暴漢らしい者の姿も形跡さへも見えないので老爺の擧動に不審な點を發見し本署へ引上げ老爺を調べた處グデン〳〵に泥醉してゐた此の老爺は「俺れは村に歸れば村長の次に偉らいんだ、貴樣等に上から扶持を貰つて居ながら一人や二人の暴漢さへも捕へられないのか」と啖呵を切つた揚句亂暴を働くので手が付けられず檢束留置の上廿八日午前十時頃醉の醒めるを待つて取調た處此の老爺は當時住所不定無職東白河郡近津村大字大槻生れ渡邊直太郎(六二)で各地方を放浪二三日前平町に來り同夜公園附近の飲食店で酒を呑み泥醉の揚句道路に倒れた際顏面に負傷したものであると

---

# 明日休刊

---

## ◎優等朝顔種子

信濃國下高井郡延德村の黑崎石衛門はそろ〳〵朝顔の播期も近づきたるに因り發芽保險なる自慢の京阪大會で名聲を四海に轟かした七寸咲巨大々輪赤納戸咲分縞入絞咲掛其他種々色合配合を良くし一々葉形色彩咲方等を明記した優種品評會用拾種四十錢二拾種類二十袋七拾五錢で變化種は十袋廿五錢で時節柄急送する旨通報ありたり

---

## 御大典記念

高久村消防組では同村大字川和久地内に在る木製火の見櫓が最近腐朽したので御大典記念事業として鐵骨火の見櫓に改築すべく着工する筈だが工費約六百圓を要する見込だと

---

入山炭礦立國勞働
# 自力會春季總會
あす湯本町三函座で
## 本多いはらき新聞社長講演

湯本町入山炭礦内入山立國勞働自力會では二十九日第一天長節の佳辰をトし午後二時より同地三函座に於て春季總會を開き諸種項協議並に會の旨趣目的を貴徹する爲めの申合せ等あり終つていはらき新聞社長本多文雄氏の有益な講演、餘興に勞働者家族慰安の活動寫眞會等ある筈で頗る盛會を豫想されてゐる

---

創業七週年記念に
# 嶄新な二つの大懸賞
興味の中心に立つ此の方法
## 幸運者は三千圓當選

本社七週年記念事業の一なる懸賞は愈々左の方法により執行する事と致しました、曩きに發表した『寶探し』に代る最も嶄新な愛讀者各位に對し一般的の興味ある方法を選擇いたしましたから御吹聽の上精々奮つて當選の程を御願ひ申上ます。

### △第一の懸賞

◇方法　五月一日發行夕刊（五月二日附）本紙第二面全紙中「漢字の誤字が何字あるか」をハガキに書いて本社懸賞係り宛て御出し下さい

◇締切　五月三日締切り當選者は五月五日夕刊に發表（正確に當てた方が多數の場合は在平日刊有志記者立會抽籤の上當選者一名を決す）

◇懸賞　當選者には割增金三千圓附復興債券十圓券一枚を贈呈（外に平町五丁目山野邊藥局寄贈の副賞）

### △第二の懸賞

◇方法　五月三、四の兩日に限り平町活動常設平館で興行する特別大映畫會の入場者にして本紙刷込みの（五月一日夕刊より刷込み）割引券を持參入場した方に限り入場の際福引番號券を差上ます

◇抽籤　抽籤は三日、四日の兩日共午後九時半同館に於て觀衆中より三名を立合はせた上執行し當選者毎晩三名を決定します

◇懸賞　一等割增金千五百圓附復興債券五圓券一枚（二等）價格三圓位の物品（三等）價格一圓五十錢位の物品を贈呈致します

磐城新聞社

---

祝創刊七週年

平町長　伏見彦衛

平町料理屋組合

ピリヤードマルト
㋣株式店
駒場四郎
平町字仲田町電話四六五

ピリヤードスズラン
平町字十五丁目
織田榮三郎

銘酒白菊
廣瀬支店
平電五四番

理髪店　大床
石崎幸一
平田町（電七二九番）

梅の湯
平町字新田町

ベニヤ小鳥店
白土喜伯
平町田町本通り

御料理　吉柳
平町新田町
電話二一〇番